

国会請願 長野県から8,709筆

全国は昨年より多い11万4,956筆



国会請願行動に長野県からは、大石信之県本部会長・澤田佐久子副会長・綱島信一事務局次長・磯野紀子常任理事の4名が参加しました。
写真は、下条みつ衆院議員に署名を手渡す県本部の4人の代表



長野県版
第519号

2024年5月15日

治安維持法賠償同盟

長野県本部

〒380-8790

長野市県町593

高校会館内

連絡 竹村利幸方

TEL・026-226-0854

FAX・026-266-0864

102歳の菱谷良一さんが北海道から参加

国会請願行動に参加して



県本部副会長 澤田 佐久子

今年の国会請願は、5月15日に行われ、長野県からは、大石会長をはじめ4名が参加しました。全国からは、35都道府県、140名の参加でした。今回も特徴は、初めての参加者が多かったことです。署名数は、長野県は、個人署名8709筆、団体署名137筆。全国では11万4956筆で、昨年を上回る署名数でした。

開会にあたり、吉田万三会長は「治安維持法による直接の犠牲者がいなくなっている。多くの庶民が苦しい窮屈な監視社会を強いていたことは、ほとんどの人が治安維持法の犠牲者だ。共に力を合わせて頑張りましょう」と挨拶されました。日本共産党の宮本岳志衆院議員、立憲民主党の近藤衆院議員も激励の挨拶を。その後、北海道の生活図画事件の犠牲者で102歳になられた菱谷良一さんが「戦後何も変わっていない。これからも頑張ると力強く発言されました。他に挨拶された方の中に、塩尻市の三浦みをさんの弟・立沢かつさんも2・4事件で検挙されたお父さんの立沢千尋さんのことを話されました。

午後は、国會議員の控え室を訪問。最初に訪問した、下条みつ衆院議員に会うことができ、署名も直接手渡しました。私たち4名の議員を回りましたが、いずれも議員は不在で、秘書に署名を手渡しました。北信越ブロックでは11名を訪問しました。行動後、ブロックごとに報告があり、北信越関係は大石県本部会長が報告しました。今後の活動の励みになる請願行動でした。

L.Y.L運動（飯伊）100周年集会

実行委員長 原 英章

5月19日（日）午後、飯田市立中央図書館で「L.Y.L運動100周年記念集会」が90人の参加者で開催されました。この集会は1924（大正13）年3月17日に起きた「L.Y.L事件」から100年目あたる今年、今日の時点に立って、この「L.Y.L運動を検証しよう」ということを目的に開催されたものです。昨年8月に有志16人で実行委員会を立ち上げ、毎月1回の会合をもつて準備を進めてきました。

△100周年記念集会の概要

◆大串潤児さん（元信州大学教授、国立歴史民俗博物館教授）

の記念講演 「こまかなぜ」「事件（運動）を考えるのか？」

「自由」「平等」思想の地下水」

大串さんは、「初発の志一なぜ社会主義だったのか？」と問題提起し、文芸グループ「夕樺」（ゆうかば）に集っていた青年たちがどのようにして文芸的なものから社会主義運動へ入っていくのか、思想的「転換」の内実を問うことの大切さを指摘。ヒューマニズムと社会認識のかかわり、農村青年の思想形成を具体的に明らかにしていくことが課題の一である、とした。

次に「戦争に向き合う」「戦後社会の中で」と、L.Y.L運動を、100年のスパンで見る時、関わった青年たちが戦争の時代とどう向き合ったのか、そして戦後社会の中でどのような活動をしたか、そこにL.Y.L運動がどう影響しているのかを見ていく必要があることを探した。上郷村長に当選した北原亀二のとりくみ、松尾村でのL.Y.L運動経験者たちの公民館活動などの具体例を示して、L.Y.L関係者の戦後の村政への関わりを見ていく必要を述べた。

◆実行委員である伊坪俊雄さんの発表

（以下3P上段へ）

柔軟に、しなやかに

◆「広場」のコーナーに、豪速球の原田大先輩に統いて登場することになってしまった北部支部の浅野一彦です。一人暮らし老人で、性格も弱いので、変化球を多用し、柔軟に、カッコよく言えば「しなやかに」生きていこうと思っています。◆周りを見回すと、国賠同盟も含めて、「豪」の方が少なくないようを感じる。他者とは、話し合えばいいのだが、「どうもしつくりこない」となったときはどうなるのだろう。「じぶんたちの仲間だけでなく、より多くの人たちと行動を共にしたい」と日頃の言っているわりにはどうなのか。一緒に行動するには、「他流」の人たちの気持ちにも思いを致さねばならない。直接には、関係ないかもしれないが、私はメーデーも、原水禁運動も複数の団体の取り組みに参加している。◆私は、いつも、ある一つの考えに傾いたときは、必ずそれとは違う見方かなと思えるものに注目する。「絶対に正しいと思から、それに基づいて行動したい。そうでなければ動けない」などと思ったことはほとんどない。実践の中で考え続けていけばいいのである。相対主義と言われてもまったく恐れない。◆来年は、治安維持法が制定されて百年、偶々、父が生まれて百年でもある。山口百恵は「しなやかに歌って」を紅白で歌つて引退したそですが、私は自分の納得できるやり方で、柔軟に粘り強く同盟の目的達成のため頑張りたい。

しなやかに語って

が良いと思います

このコラムのタイトルは「しなやかに語つて」

◆と書いたところで「アレ、柔なのは原田さんで、自分の方が豪なのかな」と、思つてしまつた。こんな駄文しか書けないので、匿名にしたかったのだが、百恵ならぬ「山口先生」に、「ウー」との顔をされてしまったので実名で書きました。（浅野一彦）

〔2P上段より〕

「『刑事記録』羽生三七の聴取書」を読み、「聴取書」が検事と羽生のせめぎ合い、羽生の発言のねらいなどの分析を報告。

◆父 羽生三七のことの会員による朗読。

いかにこの運動を伝えていくのか、などについての意見が出ました。

◆意見交換

- ・飯田市中央図書館所蔵の「YL運動に関係する「第一線」、「新興婦人」「青年と政治」「夕樺」「自由青年連盟の結社禁止」閣議決定」
- ・飯田市歴史研究所所蔵「治安警察法違反事件刑事記録」（全五冊）

◆まとめ

- ・予測を越える多くの参加者があった。
- ・大串講演による新たな課題の提起（・青年たちの「YL運動への参加をめぐっての内実へ迫る掘り起こしを・100年を通して「YL運動とその関係者のあゆみを検証する等）。

・実行員会が、記念集会を開くだけでなく、まだ公刊されていなかった資料の翻刻・発行とその分析によるもので、市民レベルでの検証活動を続けてきていることの重要性。

◆私的な感想。

・様々な問題点や時代による限界を持ちながらも、飯田下伊那の青年たちのエネルギー、創意と工夫に満ちた活動、権力に対する不屈な姿勢に学ぶところ大である。これからも学び続けたい。

思想問題について「治安警察法」取締りから、権力側が、治安維持法の制定へと動いていく一つの象徴的な運動だったのではないか。

県内の動き



教育と自治研究所総会

「地域住民の立場に立つて研究の1年に」

信州の教育と自治研究所は5月19日、長野市の高校会館で今年度の総会と「憲法」学習会を開きました。

総会では昨年度のとりくみと今年度の事業計画が提案され承認されました。

「憲法」学習会は、「子どもの権利条約」をテーマに、長野県子ども白書編集責任者の小林啓子さんと子ども文化のNPO Airt 31の代表・大屋寿朗さんがお話しと問題提起をされました。「子どもは権利の主体」などについて質問や意見が交わされました。

第95回メーデー

中小企業労働者の賃上げこそ急務

長野県の中央メーデーは、長野市のセントラルスクエアで開かれ約500名が参加しました。

主催者や来賓、各団体のスピーチでは、大軍拡・暮らし破壊の岸田政権に代わる民主的政権の確立、中小企業の賃上げ、ケア労働者の待遇改善など労働者・国民の切実な要求が語られました。

来賓として立憲民主党の杉尾秀哉参院議員、日本共産党的武田良介前参院議員らが連帯のあいさつを。県労連関係の県下のメーデーは11か所で行われ2277人が参加しました。



セントラルスクエアのメーデー会場

千代子の生き方に力をもらつた!!

—小さな村での「わが青春つきるとも」上映会—



4月27日、青木村文化会館において『わが青春つきるとも—伊藤千代子の生涯—』の上映会を行ないました。

隣接する川西地区にも呼びかけ、第一回実行委員会を開いたのは3月19日。実施日まで1ヶ月余りという短期間での取組みでした。当初は小さな村でやつても人が集まらないだろうと、川西地区会場だけと思っていましたが、より多くの人に見てもらおうと2会場での実施を決めました。

青木村 坂井弘子

青木村・川西地区の成功を教訓に
もう一度、県下各地で再上映の検討を

上映債券は、県内譲り合つて
まだ30余券あります

張つてもらつたり、有線放送で流してもらつたり、手紙を書いてお願いしたりし



『青木村の映画会場』

たその心は、民衆の幸せを願つてのこと。すばらしい映画上映を感謝します」：参加者の7割が好意的な感想を寄せてくれました。感想を読んでまた感動。小さな村での上映会。やつてよかつたと心から思えました。

ました。それでも当日までに売れていたチケットは、35枚。翌日の川西地区へ行く人も含まれていての数なので、参加者は30名くらいかと思つていました。

ところが当日、村長さんをはじめ、つながりのある村民の方や、佐久・坂城など村外の方も合わせ20名ほどの方が当日券で来ててくれ、50名を超える参加者で成功させることができました。体を壊して長らく活動から離れていた仲間が、杖を突きながら参加してくれたことも大きな喜びでした。翌日の川西会場も参加者は60名を超え、両会場合わせて100名を超える参加者で大成功でした。